



羽合小学校 学校通信

平成26年7月15日 NO, 62

一簣を覆すといえども

「五十歩百歩」(ごじゅっぽひゃっぽ) という故事成語があります。「程度の差はあってもたいした差のないこと」を示すために孟子(もうし: 今から2300年くらい前の中国の思想家)が使ったたとえ話から使われるようになった言葉です。

戦場で相手に恐れをなして五十歩逃げた兵士が、百歩逃げた兵士に対して「卑怯だ」と笑ったのですが、逃げたことに変わりはないわけで、「本質的に変わるところはない」という意味で使われます。

ところが、こんな言葉もあります。「**一簣を覆すといえども、進むは吾が往くなり**」(いっきをくつがえずといえども、すすむはわれがゆくなり)これは、孔子(こうし: 今から2500年くらい前の中国の思想家)の論語(ろんご: 孔子の言行を弟子がまとめた書物)という書物の中に出てくる言葉です。

もっこに、ほんの一杯の土をあけたただけとしても、それだけ作業は進んだわけで、その進歩は自分自身の進歩なのだという意味です。ほんの少しの事だけれど、一步一步作業は進んでいきます。それが進歩だと思います。

五十歩百歩という言葉には「程度の差」を認めない厳しさがあります。しかし、わたしたちは完璧を求めて努力していても完璧になれること少ないように思います。だから、わたしたちの行うことのほとんどは「程度の差」の範囲なのかもしれません。

だからといって、小さな悪いことと大きな悪いことが一緒だとは言えません。また、小さな努力も大きな努力もみんな一緒だというわけではありません。

いよいよ18日には通知票をお渡しすることになります。いろいろな評価が記載されていることと思いますが、3でなければ2も1も一緒ではありません。AでなければBもCも一緒ではありません。こどもたちが1学期の間に積み上げてきた一杯の土を計るには、あまりにも大きくて幅の広い評価ではありますが、わたしたちは、こどもたちの一杯の土の積み上げを評価し、見取っていかねければなりません。22日・23日に実施される個人懇談でも、こどもたちの積み上げの成果について確認し、評価し、賞賛していくことができたらうれしいです。3の中にも2の中にもやはり「一簣」はあるのです。

【いよいよ】

台風が通り過ぎ、暑さと共にあじさいの花の季節が終わろうとしています。こどもたちも、あと一週間で夏休みに突入します。ここ一週間ほど、各学級担任から提出された通知票の下書きに目を通していますが、先生方はこどもたちを本当によく見取っておられるなあという印象を強くもちました。こどもたちの頑張りを通知票や懇談で十分伝えることができるよう準備をすすめているところです。

羽合小学校 寺谷英則